理由

[illegible]民聯合会本部
[illegible]金屬労動組合

インフレツシヨン政策は、物価高による金融[illegible]の[illegible]帝國主義××、恐慌のなる故に、か、る政策に[illegible]と共に、金融資本[illegible]政府の[illegible]ため、一切の斗争を敵にへとするものである。

理由

無産階級の主張へは、インフレツシヨンを一言にしていへば、物價を高くして、賃銀を実質的に値下させて、搾取の度を深からしめへとするものと断言することが出来る。

この立場から、今迄のインフレツシヨンを実際に見ると、浜口若槻内閣はデフレーシヨン政策で物價を下げると同時に労働者の賃銀を切下げ、[illegible]中小資本家を倒して、次のインフレツシヨンの政策の準備をした[illegible]内閣の使命だった。

次ぎに来たのは犬養内閣である。此の内閣は、金の輸出禁止をやって日本銀行の利子をボツく下げた。こうして今日のインフレツシヨンの実現に[illegible]った。

次ぎに高橋蔵相は、いよく本格的な[illegible]インフレをやり出した。満州事変、農村救済の名目で多額の公債を発行した。このことは[illegible]、[illegible]ことで、こうすれば物価が上るのは[illegible]なる。軍需工業には[illegible]が、[illegible]がどんく下って輸出が増加した。然し資本家は労働者の賃銀は上げない。物価が高くなって生活が苦しくなる[illegible]景気といふものが、僅かに軍需[illegible]の方の景気であったから、それに関係[illegible]労働者は、農業や其他[illegible]が、他の産業の労働者は、すこしもよくはならなかった。反対に大産業がよーく発達するために、労働者がいらなくなり、失業者はすこしも減らない状態にあった。

ところがこのインフレツシヨンも現在では行詰ってゐる。為替が下って輸出が増加したと資本家が喜んでゐたら、英國は日印條約を破棄して印度に日本の商品が入らない様な高率関税をかけた。其他の諸國もこれと同じ様なことをやってゐる。世界経済会議が不成功に終ったこの勢はますます強くなるだらう。

軍事工業や農村救済がこゝ一年位續いても現在のインフレが強くはならないだらうし、それに先きに述べた関税競争で悪くなるだらう。

そこで、これからは又新らしいインフレの政策がとられるだらう。それは何か、農村インフレである。

農民は今日四十五億五千万円の負債を持ってゐる。この大きな負債は今日の資本主義を動きが体かないものにしてゐる。資本家や地主はこの負債の取立を急いである。そのためには、農産物の値上をさして、百姓に金を持たして取上げる方法より外にないのだから、これから農産物が上るだらう。

こうなると百姓はどうなるか、農産物が上るから生活が楽になるかと云へばさうではなく、結果資本家や地主に捲上げられるだけであって、百姓には何も残らない。それだけでなく肥料が上って結局はなんにもならぬ。

労働者にとってはどうか、農産物が上るから、生活費の三割以上を占めるこの値上りは、労働者の生活がいやが上にも苦しくなる。喜ぶのは地主と資本家だけだ。こうしたインフレツシヨンには吾々は絶対に反対すると共に、これに応じた[illegible]のスローガンの斗争をしなくてはならぬ。